



陽性者支援と性教育を結びつけるもの

2015年5月31日

昨年度の活動は、電話相談やピアミーティングなど当 NPO の活動の第 1 の目的である陽性者支援にも及ぶことができました。しかし全体でみると 学校や保健所から私たちに要請される性教育や予防啓発の活動が多くを占めました。

そこで陽性者支援と性教育の関係について考えてみました。

H I V / A I D S について、医療面は整備されてきています。生活面についても、高度な知識を持つ M S W の方が、一人一人のニーズにきめ細かに対応してくださり、生活が落ちつくまで手厚い支援をしてくださっています。

地域社会の中での陽性者の日常生活に目を向けてみましょう。お話を伺うと、やはり生きづらさを感じていることが多いとのことです。そのことの一つに家族・職場・友人・知人に話すことができないということがあります。私が、どうして家族には伝えないのですか？と聞いても、理由はいろいろで最終的には「偏見から」「理解させることが難しい」「お互いに気まずくなる」「傷つけたくない」などの答えが返ってきます。

直接、当事者が家族や友人に説明するのには、精神的な苦痛や困難が伴います。現実的には難しい問題をはらんでいます。

そこで H I V / A I D S についての正しい知識と理解があれば、たとえ、いつか話すことがあっても、何かのきっかけで病気が判明することになっても、双方に少しでも助けになったり楽になったりするのではないのでしょうか。

私は、重度の障害者や事故や被害にあった人と話すことが多いです。彼らも同じように「どうして私だけ」を繰り返して話します。千差万別の「どうして私だけこんな災難が降りかかったのかしら」があります。それぞれの人に大小の違いがあっても一人一人「どうして私だけが」を抱えていると思います。性教育は高校生の方が理解への浸透率は高いと思います。でも、誰もが抱える問題の一つとしての共感は何の世代にでも伝わると考えます。

私は、一般大衆の人たちから偏見を受けることはそれほど問題ではないと思います。近しい人、つまり家族・職場のひと、友人、知人が病気のことを正しく理解してくれて地域の中で普通に生活していければそれでいいと思います。

そのことを推し進めるために、地道に性教育や予防啓発の活動を続けていくのだと思います。

理事長 今村 葉子

第 1 回 NPO 法人 Rin かがしま主催シンポジウム

「鹿児島における HIV/AIDS 教育・予防普及啓発を考える

～陽性者からのメッセージとともに～」を開催しました。

2015年2月22日

平成 25 年 2 月 22 日（日）鹿児島女子短期大学で、HIV/AIDS 教育や予防啓発をテーマとした初のシンポジウムを開催しました。

当日は医療や教育関係者、同性愛者等の性的マイノリティの方など計 45 人の参加がありました。

助産師山之口千佳先生は「HIV/AIDS 教育について」をテーマに、小中高校での現状と課題などを説明されました。

鹿児島市保健所の保健師森園愛子先生、伊集院保健所の技術専門員下原貴子先生は、

「HIV・AIDS 予防啓発について」保健所での HIV 検査の流れなどを紹介されました。

また、当 NPO スタッフが「セクシュアリティについて」をテーマとしてワークショップを実施。「同性愛であることをカミングアウトする/される」という状況でロールプレイングを行いました。

シンポジウムについて、平成 27 年 3 月 1 日（日）の南日本新聞にも掲載され、多くの方の注目を集めました。



シンポジウムの様子

会員の声

志学館大学スピーカー

Rin かごしま設立、2回目の総会を向かえる事が出来ました。これもみなさまのご理解の元、ご協力があったの事だと、深く感謝申し上げます。

これまでいくつかの研修会、講演、シンポジウム、高等学校での性教育など参加させて頂きました。どれも身になることばかりであり、また改めて HIV/AIDS への理解がまだまだだ感じたのも、正直な気持ちです。

その一つ、3月に志学館で「臨床ゼミ」臨床心理士の先生方を対象にした時、私自身の全てのカミングアウトから話させていただきました。セクシャリティ、日常生活、就労、告知時の不安、葛藤、悩み、そして現況・・・

勿論医療関係者の皆様である、ということで行えたわけであり、やはり根底にはまだまだ我らに対する偏見、差別と根強いものがあります。この様な機会に恵まれたのはとても嬉しい事です、皆さまの心境はいかばかりのものだったのでしょうか？

一方的過ぎたかなと反省も然り、意見交換など交えて話すればよかったかなと思いました。多分に戸惑いが有ったのではと推測します。アンケートを見させてもらいましたが、HIV/AIDS の新たな認識、また初めて陽性者と会ったなどの意見を聞くと、我々の活動の必要性を強く感じました。皆さまこれからもご協力よろしくお願い申し上げます。（副理事長 O）

エイズ学会に参加して

昨年12月、エイズ学会に初めて、参加させて頂きました。どんな方たちが、参加されるのか？と戸惑いもありましたが、実際に行ってみると非常に沢山の方が参加されていて、驚きました。また3日間通して、行われているのも1つあるんだと感じました。医師、看護師、ソーシャルワーカー、臨床心理士、製薬会社、陽性者、家族等、様々な人たちが、HIV、AIDS に携わっていることを認識しました。

一番感動したことがあり、それは薬害エイズの方があって今の当事者の立場が成り立っていると言う事です。

「感染経路は、問わない」この言葉を聞いたときは、体に衝撃をうけました。差別意識がなく、またセクシャルマイノリティーを超えたものを、感じとりました。

正直自分自身 Rin かごしまの活動で何ができるのか、何をやっていきたいのか、まだよく分かりません！！様々な場所に行き、いろいろな方に出会い話を伺い吸収して、勉強したいと思う気持ちでいっぱいです。

色々な人がいるように、意見、考え方も違う相手を否定しないで、一緒に考え寄り添っていき自分の糧にしていきたいと思えます。（恵井 貴夫）



活動を「伝える」ということ

NPO は、その収益の大部分が寄付によるものです。1人でも多くの人に活動に賛同・理解してもらうことが求められます。活動を始めてこの2年間、講演・シンポジウムなどを通して、少しずつ会員が増えましたがまだ十分ではありません。

Rin かごしまは、活動内容が「HIV 陽性者の支援」であり、なかなか一般の人に馴染みがありません。HIV、というとどうしても難しく聞こえがちで、偏見を持つ人も中にはいます。私も、Rin かごしまの活動に参加しなければ、HIV をよく知らないまま、HIV 陽性者が、身近に生活していることにも気づかないまま、なんとなく生きていたでしょう。

「HIV」や「HIV 陽性者の現実」を伝えることは容易なことではありませんが、今 Rin かごしまは、パンフレットの作成や講演活動で「伝える」ことに取り組んでいます。近いうちに、県内のラジオ番組でも広報活動を始める予定です。1人でも多くの方が HIV を理解できるよう、一人でも多くの HIV 陽性者が安心して毎日暮らせるよう、Rin かごしまの会議はいつも白熱した議論が交わられています。

「伝える」ということは、時に独りよがりになりがちです。「自分は正しいのだから、私の話を聞くべきだ。私を理解するべきだ」と聴衆に押し付け、「伝える」はずが、なぜか「説教」のようになってしまうのです。このような「相手」を無視した広報活動だけは避けたいと思っています。

多種多様な人が暮らす社会に、自分たちのしていることを分かりやすく伝えるにはどうしたらよいのか。まず、他者の話を聞いてみることから始まるのだと思います。皆は、何を知らなくて、何を知らないのか。HIV や、性に対して正確に伝えたいからこそ、私は一旦 HIV や性から離れて物事を見るようにしています。

どうしたら、楽しんでもらえるだろう。参加者をアツと驚かせるには、どういうイベントを主催すればよいだろう。自分たちだけでなく、その先にいる「誰か」を想像すること。それが「伝える」広報になるのだと信じています。（今村 麻由子）

シンポジウムを通して

2015年2月22日、鹿児島女子短期大学の教室をお借りして、Rin かごしまとして初めてのシンポジウムを開催することが出来ました。まず、会員の皆さま、県や市を含めた各関係機関の方々、そして講師を引き受けてくださった講師の方々に深く感謝御礼申し上げます。

私がRin かごしまの活動に携わり2年が経過し、予防啓発を含めた広報活動を行う中で感じたことがありました。それは「連携不足」です。それぞれの立場の方々が、それぞれに成果や成功事例を持ち、問題点やジレンマを抱えているにも関わらず、その情報を共有する機会が無く、当事者の声、現場の声などを知る機会も限りなくゼロに近かったのです。私達に出来ることは何なのか、まず何をすべきなのか、その結論が各関係機関の方を招いて開催したこのシンポジウムでした。

当日は保健師、助産師、養護教諭の方々、医療関係者や行政の方々、そして当事者の方々に参加していただきました。短い時間の中ではありましたが、多くの意見交換が行われ、特にワークショップの際、自分が当事者の立場になって考える機会を与えられたことにより、自分の問題として考えることが出来、とても良いキッカケをいただきました。と言った多くのお声をいただきました。

このシンポジウムが、参加された皆さまの新たなスタートラインとなり、それぞれ新たな一歩を踏み出しました。私達Rin かごしまも、今までの活動を基礎としながらも、状況を踏まえた上で変化をしながら今後の活動を行っていく所存です。今年度は参加者を限定しない一般公開型のシンポジウムを開催することが目標です。今後とも力強いご支援、よろしくお願ひいたします。

(山田 健二)



初めまして

初めまして。2月よりRin かごしまの活動に携わせていただいています、富安皓行と申します。

2月からの定例会に参加しておりますが、参加者それぞれが、それぞれに想いを持ち、活動に参加している、と毎回考えさせられています。さまざまな意見や特性を持った人たちが集まり、意見を出し合い、まとまった意見をもとに行動を起こす。そして、多くの人の協力と共に進んでいく。これがNPOにとって一番必要なことであり、活動の醍醐味であり、そして難しさであるのかな、と2か月ほどですが感じております。

さて、現在Rin かごしまでは、活動の下地がだんだんと整い、少しずつ外部への発信に力を入れ始めようとしている段階だと思われます。その中において、いかにして、HIV/AIDSを知らない人に関心を持ってもらえるか、という視点も必要になってくるのではないのでしょうか。その視点を忘れず、Rin かごしまの活動に、参加していきたいと考えております。よろしくお願ひします。

(富安 皓行)

ファンドレイジングセミナーに参加して

平成27年2月14・15日東京にて、ファンドレイジングセミナーに参加しました。ファンドレイジングとは、共感を得ながら寄付、会費、助成金、補助金などの財源を獲得することをいいます。

セミナーには全国から様々な分野のNPO関係者が数多く参加していました。熱い想いで暴走しがちなNPOが継続して活動していくには、資金調達といった経営術が必要です。NPOには、大きく分けて、受益者と支援者という二種類の客層があるといえます。NPOはこの二種類の客層に向けて商品を生らねばなりません。NPOの商品とは「社会貢献」です。

ぼんやりとであっても誰かの役に立ちたいと思っている人に、いかにアプローチして、気軽に無理なく社会貢献に参加してもらい、社会貢献感を感じてもらうか。これが支援を得るためのNPOの重要な課題です。こちらの押し付けでなく、どちらにとってもメリットのある社会貢献の仕組みをいかに提供できるか、まだまだすべきことはたくさんあると感じたセミナーでした。

(萩原 真実)

会員募集中！

会員になって特定非営利法人Rin かごしまを応援して下さる方を募集しています。

個人会員：6,000円/年

団体会員：1口20,000円/年

賛助会員：3,000円/年

団体賛助会員：1口10,000円/年

学生会員：2,000円/年



活動実績（平成27年1月～4月）

月 日	活 動	場 所	参加人数など
1月17日(土)	1月定例会	鹿児島市事務所	5名
1月19日(日)	宮崎日日新聞記事掲載	宮崎日日新聞	
2月13日(金)	熊本県性教育研究大会参加	熊本県	2名
2月14日(土) ～15日(日)	ファンドレイジング・日本2015参加	東京都	1名
2月21日(土)	九州LGBT支援団体打ち合わせ	福岡県	1名
2月21日(土)	2月定例会	鹿児島市事務所	6名
2月22日(日)	第1回NPO法人Rinかごしま主催シンポジウム「鹿児島におけるHIV・AIDS教育・予防普及啓発を考える～陽性者からのメッセージとともに～」①「HIV・AIDS教育について」助産師 山之口千佳氏②「HIV・AIDS予防普及啓発について」鹿児島市保健所保健師 森園愛子氏、伊集院保健所技術専門員 下原貴子氏③「セクシュアリティについて(ワークショップ)」	鹿児島女子短期大学	医療・教育・行政関係者・一般 45名
2月22日(日)	Futures Japan アンケート報告会参加	鹿児島市	5名
3月7日(土)	志学館大学臨床心理士セミナー発表	志学館大学	聴衆45名 Rin2名参加
3月21日(土)	3月定例会	鹿児島市事務所	6名
4月18日(土)	4月定例会	鹿児島市事務所	7名

電話・メール相談実績活動実績（平成27年1月～4月）

月	電話相談	メール相談	合 計
1月	4件	0件	4件
2月	5件	0件	5件
3月	3件	0件	3件
4月	0件	0件	0件

電話相談

電話による無料相談を行っています。

099-210-5439

毎週 日曜日 13:00～17:00

事前にメールでご連絡いただければ、それ以外の時間でも

電話相談を行うことができます。

*守秘義務を遵守します。安心してご相談下さい

メール相談

電子メールによる無料相談を行っています。

rin@rinkagoshima.com

または

<http://rinkagoshima.com>の「お問い合わせ」からご相談ください。

*守秘義務を遵守します。安心してご相談下さい。

相談時間、相談内容によっては、お返事が遅くなる場合があります。

ご了承下さい。

HIV陽性者が安心して暮らせる街は、
みんなが安心して暮らせる街。

Rin かごしまだより
2015年5月31日 第4号

発行：特定非営利法人 Rin かごしま
発行者：今村 葉子
住所：鹿児島県始良市東餅田 1672
番地1 プリムヴェール M202号
TEL：090-1195-4833
E-mail：jim@rinkagoshima.com
URL：http://rinkagoshima.com